

## 2. 販売状況について、主要品種は春に完売。

オリエンタル+OTの1年栽培の面積は対前年101%で、2022年オランダ産の仕入れにおいても、昨年同様の供給と(世界の)需要バランスを感じました。

弊社の場合、仕入・受注ともに前年同時期よりやや進んでいる状況ですが、7月初めに約2年半ぶりに来日してくれたオランダの輸出会社からは、日本全体の仕入れはやや遅れているとの報告でした。

現在、オランダの球根市場で新たなオファーはほとんどなく、シベリアや主要品種の多くは、輸出会社側も春に完売となっており、追加発注はできません。

LAは1年栽培の面積が12%増加となっていますが、アメリカへの輸出が好調な、中南米の需要は、同様かそれ以上に増加していると聞いています。

## 3. 切花相場と輸入切花

日本花き卸売市場協会の主要市場(59社)における、主要品目別取引状況では、2021年の平均単価前年比が、テッポウユリで106%、その他のユリで107%と好調で、新聞相場をトレース(単純平均)してみますと、2022年上半期のオリエンタルOTの切花単価も、前年同様の伸びとなっています。

2022年上半期の百合切花の輸入本数は約25万本で、前年同期比で6割ほど減少しており、国際物流コストの高騰も大きく影響しているようです。

話は少しそれますが、来日したオランダ人によると、円安により、外国から見れば日本のホテルも食事もとても安くなっている一方で、渡航のメインコストとなる国際線航空券が以前の何倍にも跳ね上がっているそうです。外国人観光客(インバウンド)にとって日本旅行の旅費総額はむしろ高いのかもしれない。

## 4. 暑い夏が当たり前になってきている

7月17日辺りから、ヨーロッパは熱波に見舞われ、イギリス(ロンドン近郊)では観測史上初めて40℃を超え、スペインやフランスでは乾燥による山火事が発生しました。オランダでは水不足が心配されましたが、内陸(オランダ南部)の圃場を持つ球根生産者によると、ユリ球根の圃場で灌水制限等の影響は出ていません。

日本でも、全国的に温暖化で夏が厳しくなっており、特に内陸・盆地・都市部など気温が上がりやすい地域・地形では、35℃以上も珍しくなくなってきました。

日没頃まで高温が続きますので、皆様ご自愛くださいませ。又、細霧の活用や、午前中の比較的気温が低い時間帯に打ち水を行うなど、百合の熱中症ともいえる状態(日中に地表層が乾くと、ハウス内の気温が上昇、湿度は低下、空気の飽差が高く植物体が脱水)にもご注意ください。よろしく願いいたします。

以上